

令和8年度学力向上指導改善プラン

学校教育目標 夢に向かって 堂々と歩む子の育成
～あきらめず挑戦し 自尊感情を高めるけやきっ子～

目指す子どもの姿 人とつながり笑顔あふれる心ぽかぽかなけやきっ子～けやきのエースをめざせ～

変容を目指す資質・能力 a知識及び技能 b思考力、判断力、表現力等 c学びにむかう力、人間性等 d情報活用能力 e課題解決能力 f学び続ける姿勢 gコミュニケーション能力

三田市立けやき台小学校
 学校長 小川 晶 弘
 研究主体【研究推進委員会】

前年度			継続性	4月			2～3月 年度末評価	
学力向上に向けた重点的な目標	年度末評価 (前年度の成果と次年度に向けた課題等)	評価		学力向上に向けた重点的な目標 (変容を目指す資質・能力)	成果となる目標 (指標となる数値等)	具体的な行動目標 (成果目標達成のための具体的な手立て等)	教員点検	(今年度の成果と来年度に向けた課題等)
・豊かな心の育成を図る	<ul style="list-style-type: none"> いじめ問題行動等に関する学校評価アンケート結果では、児童・保護者・職員評価とも昨年度と同程度、肯定的評価90%以上で高評価である。 児童が誰かに相談しようと思えるための意識付けや、相談しやすい環境、時間の確保などを継続して行う。加えて、保護者との連携を密に図り、相談しやすい関係を築く中で、学校・家庭・地域が連携して子どもたちの成長を見守っていく体制づくりを推進する。 「あいさつ」についての肯定的評価は、職員62%、保護者82%、児童89%となり、三者に意識の開きがあることが課題である。 今後も、あいさつに対して考える機会を設け、児童と共にあいさつの大切さ、目標を共通確認する。また、児童会活動や学年において、児童が主体的に取り組むあいさつについての活動を構築する。 ハートフル参観での学級集会和、人権について保護者と共に考える機会ととらえ、今後も継続し大切に実施していくとともに、人権教育のねらいや内容について情報発信に努める。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 豊かな心の育成を図る (b・c・e・g) 	<ul style="list-style-type: none"> 学校評価アンケート(職員・保護者)の「児童の実態」の項目や子どもアンケートの「自分から進んで明るくあいさつをしている」「言葉づかいに気をつけて、友だちと仲良くしている」の項目で9割以上の肯定評価をめざす。 	<ul style="list-style-type: none"> 「学校いじめ防止基本方針」にもとづき、いじめ・不登校の未然防止、早期発見・解決のための取り組みを行う。 けやき台中学生徒会作成いじめ防止啓発カレンダーを校内に掲示する。 情報モラル教育講演会を実施し、人権に配慮した正しいコミュニケーション方法を学ぶ機会を設定する。 児童会主催で「あいさつ運動」(児童会)を実施し、めざす児童像の「人とつながる子」をめざす。 学校外の教育力(ゲストティーチャー)を活用し、多様な考え方・生き方・表現等にふれさせる場を設定する。 道徳教科書の他「ここはばたく」「心きらめく」「心ときめく」等を活用して、道徳教育・人権教育の充実を図る。 人権参観(ハートフル参観)を実施する。 人権標語(ハートフル標語)を考える機会を設定する。 特別活動委員会を中心に、学級会・児童会を充実させる。 			
・本に親しむ子の育成を図る	<ul style="list-style-type: none"> 「読書活動」に関する学校評価の項目において、職員の肯定的評価は92%、保護者の肯定的評価は98%、児童の肯定的評価は80%と前年度よりも向上している。特に保護者の肯定的評価は36ポイント上がった。 図書ボランティアによる本の貸し出し、読み聞かせ等により、来室する児童や図書の貸し出し数が増えている。また、学期ごとに読書ウィークを設定して朝読書を行い、2学期は期間を長くするなど、これまでの継続・発展させてきた取組が効果を発揮している。 今後も職員が意識して、児童の読書時間の確保や読書好きの児童の育成に取り組んでいく。 学校と家庭とが連携し、毎月23日の「家族読書の日」の取組や読書ウィークの取組を通して家庭でも本を読む時間を確保していく。 	A	<ul style="list-style-type: none"> 本に親しむ子の育成を図る (a・b・c・d・f) 	<ul style="list-style-type: none"> 学校評価アンケートの「読書」についての項目で9割以上の肯定評価をめざす。 	<ul style="list-style-type: none"> 書かれている情報を正確に読み取る力をつける授業を意識する。また、本を手取る機会を意図的に増やす。 毎月23日を「家族読書の日」とし、学校だよりや図書館だよりで家族読書の啓発を行う。 学校司書と連携し、学校図書館と学年文庫の運営を工夫する。 学校司書と図書ボランティア(かたつむり/てんとうむし)による読み聞かせを継続する。 各学期に一度、読書週間を設定し、朝読書を行う。 ブックフレンド(図書)委員会の活動を支援する。 国語科の中で、多読、おすすめの本紹介、ビブリオバトルなど、学年に応じて取り組み、本に触れ合う機会を持てるようにする。 			
・「学びに向かう力を育てる～子どもたちが主体的に考え、つなぎ、高め合う授業をめざして～」のテーマに沿った研究の推進	<ul style="list-style-type: none"> 学校評価の「算数科の学習で、自分の力で考えたり、みんなと交流しながら自分の考えを伝えたりしている」(児童)の項目では、肯定的評価が92%で大変良好であった。 算数科の研究も15年目をむかえ、「対話」を重視し思考力を深める授業づくりに計画的に取り組む、主体的に学ぶ児童の姿につながっている。 全国学力・学習状況調査結果において、全国平均と比べて高く、大変良好であった。今後も、具体物や図を活用し児童が数の大きさと関係を実感としてとらえられる活動を取り入れるとともに、授業中のベアトワーク、リポインティングで対話を深めていく活動を取り入れ、児童が自分の考えを言葉で表現したり、筋道を立てて説明したりする力を育てる。 	A	<ul style="list-style-type: none"> 「学びに向かう力を育てる～子どもたちが主体的に考え、つなぎ、高め合う授業をめざして～」のテーマに沿った研究の推進 (a・b・c・d・e・f・g) 	<ul style="list-style-type: none"> 学校評価アンケート(児童)の「学校の勉強がわかる」「学校の勉強は楽しい」の項目で9割以上の肯定評価をめざす。 学校評価アンケート(職員)の学校運営「研究」の項目で研究の成果を問い、9割以上の肯定評価をめざす。 全国学力・学習調査(算数)の「Dデータの活用」において「目的に応じて適切なグラフを選択して判断し、その理由を言葉や数を用いて記述する」問題の正答率が50%を上回る。 	<ul style="list-style-type: none"> 朝の学習タイムを継続する(算数)。 各学年児童の実態を考慮した、学力向上に向けての取り組みを工夫する。 放課後学習日や夏期休業期間等に学力保障(個別指導)を行う。 「がんばりタイム」を継続して実施する。 全国学力・学習状況調査結果を踏まえて、授業改善を行う。 研究テーマ「学びに向かう力を育てる」に沿った授業づくりを行い、思考力の育成をめざす。 日々の授業で学んだことをふりかえり、次の学習に生かす力を養う。 授業研究を行い、全職員で授業力向上に努める。 1月に算数科研究発表会を実施する。 兵庫型学習システム(5・6年)と担任が連携し、児童理解と指導を行う。 			
・すこやかな体づくりをめざす	<ul style="list-style-type: none"> 学校評価の「体育の時間や休み時間に進んで運動したり、体を動かしたりしている」(職員)の肯定的評価は、89%で良好であった。同項目の児童アンケートの肯定的評価は92%で大変良好であった。 体育授業では、作戦カードやワークシートを工夫して身につけたい技能や思考を意識化させ、タブレットを効果的に用いて授業を行うことができた。 大縄大会や縄跳び記録会をきっかけに、多くの児童が積極的に運動する姿があった。家庭においても目標を持って運動に取り組めるように働きかける。 	A	<ul style="list-style-type: none"> すこやかな体づくりをめざす (c・e・f) 	<ul style="list-style-type: none"> 子どもアンケートの「休み時間や体育の時間に、目標をもって運動したり、体を動かそうとしていたりしている」の項目で9割以上の肯定評価をめざす。 	<ul style="list-style-type: none"> 体育科の体育カードの充実を図り、目標に向かって取り組めるようにする。 いろいろな運動遊びができるよう環境整備を行う。 スポーツ(体育)委員会の活動を支援する。 栄養教諭と連携し、食育を計画的に行う。 			
・ICT機器を効果的に活用した主体的・対話的で深い学びにつながる授業の工夫改善を行う	<ul style="list-style-type: none"> 学校評価の「ICTを効果的に使い、個に応じた最適な学びを実現させていく」(職員)の項目では、肯定的評価が100%で大変良好であった。同項目の児童アンケートの肯定的評価も97%と大変良好である。 算数科をはじめ、各教科・領域において、デジタル教科書やオクリンクプラスを活用し、児童が考えを共有し対話を通して学ぶ授業を実践することができた。 児童が学んだことをスライドにまとめ発表する機会が多くあり、プレゼンテーション能力の向上につながった。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ICT機器を効果的に活用した主体的・対話的で深い学びにつながる授業の工夫改善を行う (d・e・f) 	<ul style="list-style-type: none"> 学校評価アンケートの「ICTを効果的に使い、個に応じた最適な学びを実現させていく」の項目で、9割以上の肯定評価を目指す。 	<ul style="list-style-type: none"> 発達段階に応じてICTを効果的に使い、児童一人ひとりに有効な指導を続ける。 本校の算数科の研究とつなげ、ICT機器を活用した対話的な授業を行う。 			
・保・幼・小・中・高の連携を図る	<ul style="list-style-type: none"> 学校評価の「保・幼・小・中連携体制を確立し、学びの連続性を踏まえた指導を行っている」(職員)の項目では、肯定的評価が95%で大変良好であった。 中学校区の連携連絡会を学期に1度開催し、特色ある取組や生徒指導等について情報交換を深めることができた。また、幼稚園児の小学校参観体験や中学校生徒の出前授業など、児童と園児・生徒がかかわる機会を持つ 連携連絡会の内容をふまえ、保幼園から小学校、小学校から中学校への学びの連続を意識した指導をさらに行っていくたい。 	A	<ul style="list-style-type: none"> 保・幼・小・中・高の連携を図る (c・f) 	<ul style="list-style-type: none"> 学校評価アンケート(職員)の「保・幼・小・中連携体制を確立し、学びの連続性を踏まえた指導を行っている」の項目で9割以上の肯定評価をめざす。 	<ul style="list-style-type: none"> ウッディ・カルチャータウン青少年連絡協議会を定期開催し、児童・生徒理解を深める。 学校園所連携連絡会での内容を職員で共有する。 保幼小・小中間で、児童の様子について引き継ぎを行う。 年間を通して継続的な保・幼・小・中交流を計画的に行う。 5年生と入学予定園児との交流を継続する。 けやき台中学校生徒の「トライやる」の受け入れを継続する。 			

○「教員点検」は教員対象に実施した自己点検調査結果(1～5の5段階評価)の平均値
 ○「評価」は年間の取組みについて、4段階で評価
 A・・・十分に達成 B・・・おおよそ達成
 C・・・達成が不十分 D・・・ほとんど達成できず